2026 年度一般選抜（コア試験・プラス試験）

出題ポイント

国　語

法学部コア試験・国際社会科学部プラス試験・文学部（英語英米文化学科）プラス試験

出題の意図

【現代文】

（一）常用漢字の範囲内で出題された漢字の書き取りと読みの問題である。標準レベルの漢字に関する能力があれば、解答可能なレベルの設問である。なお、旧字等も正解の許容範囲とした。（二）は慣用的な表現に関する基礎的な知識を問う設問、一部別解を許容した。（三）と（四）は、空欄の前後の文脈を理解できているかどうかを問う空欄補充問題である。基本的な語彙力が必須となる。続く（五）（六）では、問題文の前半の論旨が把握できているか否かを問うた。指定された字数をヒントに、傍線部の前後を精読することが何より肝要だが、同じ趣旨が後半でも再度言及されており、そこに気付けるかどうかが解答の鍵となる。なお、一部別解を許容したもの、部分点を与えたもの等がある。（七）と（八）は、指定された部分についての正確な理解を問う設問。傍線部前後の内容を、文脈にそって正確に把握できれば、選択肢の中から正答を選ぶことができる。

【古文】

中世王朝物語の『我が身にたどる姫君』から出題したもので、高校古文の基本的能力を問う問題となっている。登場人物の関係性がやや入り組んでいるため、リード文や注を参照しながら丁寧に読む必要がある。（一）～（四）はそれぞれ出題形式は異なるが、古文の基礎的な単語や文法事項を知っていれば容易に解ける問題である。（五）は本文の解釈に関する問題、（六）は和歌に関する問題であるが、登場人物の状況や出来事の流れなどが問題文全体から読み取れていれば難しくない。（七）は問題文全体を正確に理解できているかを問うているが、紛らわしい選択肢はなく、問題文を丁寧に読んでいれば答えられる。

解答又は解答例

一

（一）　1 当該　2 示唆　3 突如　4 暴挙　5 頑迷（頑冥）

（二）　P 途　　Q 講　　R 舌（紙）

（三）　① j　　② h　　③ e

（四）　ア b　　イ m　　ウ j　　エ a

（五）　I 相対主義（内部集団）　II 感情移入を通じての共感

　　III 理論的な説明を受けつけない

（六）　文化的な侵略

（七）　2

（八）　5

二

（一）　A 2　　B 4　　C 3

（二）　i 7　　ii 3　　iii 1

（三）　① 1　　② 3

（四）　ⓐ 懸想　　ⓑ くま

（五）　4

（六）　2

（七）　1・3

経済学部コア試験・法学部プラス試験

出題の意図

【現代文】

出題された文章は、バブル崩壊後の 1990 年代以降に日本が直面した「デジタル敗戦」の原因を分析するとともに、そこから脱却する方策を提案している。（一）は常用漢字の範囲から出題された漢字の書き取りと読みの問題で、基礎的な学力を確認するものである。（三）の空欄補充も同様な趣旨である。ともに語彙力も確認しており、旧字なども正答の許容範囲内としている。（二）の空欄補充は選択肢の中からもっとも適切なものを選択する形式で、空欄前後の本文の文脈を正確に把握できるかが問われている。（四）傍線で指定された慣用的な表現の意味を選択肢の中から選ぶもので、語彙力を確認するものである。（五）は本文からの抜き出しによって、傍線で指定された箇所の内容を理解できているのかを問う問題である。本文を読み直して文脈を把握すれば、指定された字数をヒントにして設問の文章の空欄に対応している箇所を発見できる。部分点を認める場合もある。（六）（七）は傍線で指定された箇所についての理解を問う問題で、本文の内容を文脈にそって正確に把握できれば、選択肢の中から正答を選ぶことができる。（八）は本文の内容を理解できているのかを問う問題で、選択肢と本文の対応箇所を丁寧に比較することが正答を選択するためのポイントになる。（九）は日本近代文学史の問題で、選択肢にあがった作品はいずれも大変高い評価を得た有名な作品である。

【古文】

代表的説話集を題材とし、古文を読解するための基礎的知識と、古典（問題文）の内容を正しく深く理解し得ているかを問うている。（一）および（七）⑵は古文に出てくる標準的な漢字の読み・書きを問う。日頃から古文に現れる語句や漢字を意識的に学んでおくのがよい。ネッ

トゲームやコミックの登場人物の名前に見られる漢字には、正しくない読み方を当てているものも見られるので受験生は注意が必要である。

また、古文を読む時に意図的に振り仮名を隠して読んでみるなどの練習をするのもよいだろう。「現代仮名遣いで」と指定していることも注意してほしい。なお、部分点を認めた場合がある。(二)～(四)、(八)はことばの意味や、それを踏まえて文脈を読み取る能力を問う。全体の文章をきちんと把握できれば難しくない。日頃からさまざまな古文に親しんでおくのがよい。多種多様な古文をできるだけ多く読み、また、問題文を解きながら読解のコツを習得するとよいだろう。指示語は常に何を指しているか意識するのも上達のコツである。(五)は場面ごとに主体、主語、行為者(動作者)などを把握することが作品の理解上重要である。常に登場人物の人間関係や場面ごとの出来事を正確に把握できるようにしていくことが大切である。(六)は敬語(待遇表現)に関する出題である。基本を学習し、常に登場人物の身分・上下関係を意識して読む習慣を付けるとよい。本文内の他の箇所でその人物に使われている敬語も解答のヒントになる。(七)⑴は文法問題。基礎的事項が出題されるので、日ごろからこつこつ習得しておくとよい。(九)は基礎的な文学史の知識を問う。主な作品や作者は整理して覚えておくとよい。文学史の教科書も有益である。

解答又は解答例

一

(一) 1 はば　2 台頭(擡頭)　3 往時(往事)
4 旧態　5 しょうど　6 かて
7 はいしゅつ　8 き　9 苦慮
10 余暇

(二) ア f　イ e　ウ p　エ c

(三) ① 胎　② 命　③ 信

(四) P 4　Q 3

(五) I 通信インフラを整備　II 国際的に普及する
III ガラパゴス化

(六) 3

(七) 4

(八) 2・5

(九) 5

二

(一) ① 故　② うぶやしな(ひ)

(二) i 2　ii 1　iii 4　iv 1

(三) 2

(四) 4

(五) ① 3　② 1

(六) A たてまつり　B はべれ　C たまふ

(七) ⑴ 3　⑵ 5

(八) 1

(九) 3

文学部コア試験

出題の意図

【現代文】

一　出題された文章は、アメリカのジャーナリストが大きく揺れ動く現代の状況の中でジャーナリストはどうあるべきなのかを論じた著書の「まえがき」の部分である。(一)は常用漢字の範囲から出題された漢字の書き取りの問題で、基礎的な学力を確認するものである。(二)の空欄補充も同様な趣旨である。ともに語彙力も確認しており、旧字なども正答の許容範囲内としている。(三)は空欄補充の問題で、選択肢の中からもっとも適切なものを選択する形式である。空欄前後の本文の文脈を正確に把握できるかが問われている。(四)は傍線で指定された箇所についての理解を問う問題で、文脈にそって正確に内容を把握できれば、選択肢の中から正答を選ぶことができる。(五)は傍線で指定した慣用的な表現の意味を選択肢の中から選ぶ問題で、語彙力を確認するものである。(六)は本文からの抜き出しによって、傍線で指定された文章が提起している内容を理解できているのかを問う問題である。指定された字数をヒントにして、本文全体を読み直せば、設問の文章の空欄に対応している箇所を発見できる。部分点を認める場合もある。(七)本文の内容を理解できているのかを問う問題で、選択肢と本文の対応箇所を丁寧に比較することが正答を選択するためのポイントになる。

二　過酷な現実の体験には、通常の因果関係では説明しがたい不条理性が含まれているが、それをそのまま語ったのでは、聞く側の負担が大きすぎる。だからといって因果関係の明確な物語や民話に変換してしまうと、過酷な現実がはらむ不条理性を伝えることができない。そのため物語や民話に、切実な現実の不条理とは異なる不条理性(=「因果間のギャップ」)を付与することで、現実とのつながりを伝える工夫が必要になる。このような主旨の論説文からの出題である。特に第6段落をヒントに、具体例から類推する能力が問われるところもあるが、標準的な語彙力・読解力・思考力があれば十分に対処可能な設問であろう。

各設問のうち、(一)は漢字の書き取りと読みの問題、(二)は慣用的な表現と漢字の知識を試す設問となっている。どちらも常用漢字の範囲内で出題された漢字の基礎的な知識と語彙力を問うものだが、旧字・

異体字・俗字なども正解の許容範囲とし、別解を許容したものもある。また（三）は、問題文前半の論旨を把握した上で、適切な四字熟語を選ぶ空欄補充問題、(四) は問題文の中盤までの理解度を問う設問である。（五）は主に問題文中盤から後半の論旨を把握できているか否かを試した記述式の抜き出し問題であるが、（三）以降の設問で論旨の流れを把握できれば、問題文全体の主旨を問う（六）にも的確に対応できるようになっている。なお、（五）の記述式の問題の解答には部分点を与えたものがある。

【古文】

出題した文章は、『曾我物語』の一場面である。リード文や注も参照しながら、文章を場面に即して丁寧に読む力を問うている。リード文から物語の展開を予測し、注から読解に必要な情報を探しながら読み取る力は読解力の重要な要素である。

（一）は古文に頻出の語の読みを問うものである。日頃から古文を音読するなどして慣れておくとよい。また、現代仮名遣いでの解答を求めており、基本的な表記のルールが曖昧になっていないかも確認してほしい。（二）は基礎的かつ古文に頻出の古語と文法的知識を、本文に即して理解できているかを問うものである。語彙力と読解力の双方が必要である。（三）はいずれも基礎的な文法的知識を問うものである。基礎的な知識があり、文の意味が読み取れていれば解答は容易である。（四）（五）の空所補充問題は本文の内容を正確に把握できているかを問う問題である。（四）は馬と鞍について十郎が語っている内容と発言の意図が理解できるか、（五）は二つの歌がともに袖の色の変化について詠んだものであることに気づけるかがポイントとなる。（六）（七）は文章に即して内容が把握できているかを問うもの。登場人物それぞれの行動や発言の内容とその意図を、順を追って丁寧に読み解くことが大切である。（八）は文学史の基礎的な知識を問うものである。

【漢文】

（一）語の意味を問う。重要な漢語については日頃から意識して覚えておくと良い。（二）読みを問うと同時に基本的な句法を理解しているかを問う。基本的な句法が一覧になっている便利な参考書を一冊手元に置いて、繰り返し読んでほしい。（三）返り点をきちんと付すことができるかを問う。これも基本的な句法を理解できていれば答えられる。（四）文脈を読み取る能力を問う。全体の文章をきちんと把握できれば難しくない。日頃から、問題集を解くなどして、多種多様な漢文に慣れ親しんでおくのが良い。（五）基本的な文学史を問う。授業で学ぶ範囲である。

最も重要なのは日々の授業をおろそかにしないことである。その日にやる範囲の漢文は前もってノートに書き出し、現代語訳を作成し、重要な単語や句法などについては注記しておいた上で授業に臨めば、理解が深まるはずである。また定期試験や模擬試験などで間違えた箇所だけ抜き書きしたノートを作り、試験前に見直すと良い。

解答又は解答例

一

（一） 1 崩壊（崩潰） 2 規律（紀律） 3 独占
4 範囲 5 狭

（二） P 色 Q 裏 R 初

（三） 2

（四） 4

（五） 3

（六） I プロの記者 II 厳密な事実確認 III 基本的な事実関係

（七） 2・6

二

（一） 1 粗筋（荒筋） 2 うす 3 暗喩 4 勘案
5 飢餓（饑餓）

（二） ア 折 イ 跳（撥） ウ 立 エ 否（辞）
オ 割

（三） d

（四） 1

（五） I 因果関係の連鎖 II 「現実」とのつながり
III インスタントな納得

（六） 3

三

（一） 1 きぬぎぬ 2 さみだれ（さつきあめ） 3 かず（き）

（二） A 3 B 2 C 4 D 1 E 1 F 3

（三） a 1 b 2 c 6

（四） 形見

（五） 涙

（六） 2・5

（七） 3

（八） 1

四

（一） a 3 b 1

（二） 3

（三） 「令」の左下に「三」、「賜」の左下に「二」、「者」の左下に「一」。上中下も認めた。

（四） 2

（五） 1

国際社会科学部コア試験・経済学部プラス試験

出題の意図

【現代文】

自己責任論が責任の有無で人々を分断し、互いに他に責任を転嫁するものへと変化する過程を辿り、それが政府などによる免責にも利用されることを示した論説文からの出題である。具体例と引用された文章との関係から、本文の論旨を把握しなければならない点もあるが、現代文に関する標準的な語彙力と読解力に加え、柔軟な思考力があれば十分に理解可能な内容であろう。

各設問にも触れておくと、(一)は漢字の書き取り問題、(二)は問題文中の空欄に適切な漢字を入れる選択問題である。また(四)は適切な漢字を入れて四字熟語を完成させる設問であるが、これらはいずれも常用漢字に関する標準的な知識や語彙力を問うものであるとともに、設問箇所の前後の文脈を的確に理解できているかどうかを試すものとなっている。なお(一)と(四)は、いずれも旧字・異体字・俗字なども正解の許容範囲とし、(四)については別解も許容してある。

一方、(三)の空欄補充問題には、空欄の前後だけにとどまらぬ問題文の論旨の把握が求められている設問が含まれ、(五)は問題文前半の論旨の理解度を問う記述式の抜き出し問題となっている。更に(六)では問題文前半と後半のつながりが問われ、(七)は問題文後半の論旨の理解度を試す設問といえる。これら設問に沿って問題文の論旨の流れを辿ることができれば、(八)の問題文全体の主旨を問う設問にも十分に対応が可能であろう。なお、(五)の記述式の解答には部分点を与えたものがある。

【古文】

出題した文章は、中世の説話『古今著聞集』の一部である。リード文はないが、注を参照しながら、敬語を軸に文章を丁寧に読む力を問うている。(一)は基礎的な古語と文法的知識を本文に即して理解できているかを問うものである。(二)は古文読解の上で、頻出することばの読みを問う。普段から意識して音読していると難なく解答できるだろう。(三)は敬語の識別を問う。尊敬語・謙譲語の判断を的確に行い、文脈に即して判断することになる。敬語をしっかり学習していれば、正解は得られる。(四)は「いかが」という表現がどのような意味になるのかを問う。文脈を的確に追えていれば、難しくはない。(五)は傍線部の内容把握であるが、敬語の理解による文脈把握である。(六)は「せんずる」の品詞分解を問う。普段から文法的知識を活用しながら学習していると容易に解答できる。(七)は傍線部の内容把握である。用いられた敬語を的確に理解し、文脈を確実に把握できていると、正解は容易である。(三)と同様にオーソドックスな学習をしていれば容易に解答できる。(八)は文学史の理解を問う。作品の成立時期を把握するという基本的な学習を普段から行っていれば容易に解答できる。

解答又は解答例

一

(一) 1 風潮　2 駐屯　3 聖職　4 是非　5 頻繁

(二) ア 3　イ 5　ウ 1　エ 3

(三) P e　Q g　R j

(四) X 業　Y 得(縛・滅)

(五) I 真実の報道　II リスク　III 自ら考え、独自の行動

(六) 5

(七) 1

(八) 3

二

(一) A 4　B 1　C 1

(二) i けしき　ii とねり

(三) a 1　b 2　c 2　d 4

(四) 3

(五) 2

(六) 1

(七) 4

(八) 2

問題の特徴

これまでと同様に、現代文・古文・漢文を通じて奇問や極端な難問はなく、多くは基礎的な知識や理解力を問うものとなっている。現代文は、文学的・哲学的な内容のものから現代社会の動向や時事的な出来事を扱ったものまで、幅広いテーマの論説文を中心に出題されている。また、漢字の読み書きが常用漢字の範囲内で毎年必ず出題され、熟語や慣用的な表現を完成させる問題、それらの意味を問う問題なども頻繁に出題される。古文の問題は、学部を問わず読みやすい文章を選び、古典の表現・語法に関する基礎的知識や文脈を正確に追える読解力を問うものが中心になっている。漢文は文学部においてのみ一題出題される。全体の内容理解とともに、基礎的な句法の訓読の仕方、基本語彙の読み方・意味などが出題されている。

学習へのアドバイス

現代文については、日常生活で日本語の文章に接する機会を多くもつことが大切である。それが日本語の基礎力を向上させ、受験勉強のみならず大学入学後にも役立つ真の学力を養うことにつながる。読書に際しては全体の趣旨と論理の流れを把握し、なじみのない言葉は辞書をひいて意味を確認するように心がけてほしい。古文・漢文については、日々の授業をおろそかにせず、教科書をきちんと理解しておくこと

がもっとも大切である。より具体的にアドバイスをするなら、その日に予定されている範囲の古文は前もってノートに書きだし、現代語訳を作成し、重要な単語や文法事項については注記しておいた上で授業に臨めば、理解が深まるはずである。また定期試験や模擬試験などで間違えた箇所だけ抜き書きしたノートを作り、試験前には見直しておくとよい。

国際文化交流学部コア試験

出題の意図

【現代文】

一

日本語以外の言語の単語や熟語を日本語に取り入れる際に、外来語（問題文中の表現では「カタカナ語」として日本語文に取り入れるか、あるいは和語や漢語に翻訳して取り入れるかという問題ついて具体例を挙げながら論じた文章からの出題である。

ほとんどの設問が、問題文の概要や筆者の主張内容を把握できているかどうかということをみるための問題である。○×判定問題、７０字以内での記述問題はもちろん、問一の単語の意味を問う問題や、問二の穴埋め問題も、この問題文における当該部分の文脈を把握していなければ正答にいたることが難しい問題なので、なによりもまず問題文全体の内容や筆者の主張をしっかり理解することが重要である。問三の記述問題は模範解答以外にも中間点を与えている。漢字の書き取り問題は、明朝体、教科書体、游明体などの字体はすべて正答とみなしている（二－A の書き取り問題も同じ）。

二－A

ヨーロッパと日本を含むアジアの楽器や音楽を比較した論説文からの出題である。これも一と同様で問題文の主旨や筆者の主張を間違いなく理解できていることが、大半の設問で正答を導き出すために必要な前提となっている。例えば、問一（問題文中の空欄に該当するものを選択肢の中から選ぶ問題）、問二（問題文中の空欄をに該当するものを問題文中から書き抜く問題）などは、単語レベルでの穴埋め問題ではなく、一文、あるいはそれと同程度の長さをもつ句を補充するもので、前後の文脈だけではなく、全体の内容を把握していないと解答できないものである。

問二、問六などの記述問題には模範解答以外にも中間点を与えている。漢字の書き取り問題の「しんずい」では「真髄」の他「神髄」「心髄」も正解としている。

【古文】

二－B

問題文は『大鏡』の一節で、一条天皇の母・藤原詮子（女院）と、その弟である藤原道長（入道殿）との関係を記した場面である。動作の主体や対象、状態の持ち主などが明示されていることが少ない文体なので、ひとつひとつの文について、それは誰の誰に対する行為なのか、またその状態の主体は誰（あるいは「何」）なのかなどを把握しながら読み進めた上での全体の内容把握が必要となる。問七の文学史問題以外の設問は、選択式でも記述式でも、その点ができているかどうかを見るための設問といえる。例えば問四の理由を記述する問題では、設問の中にでてくる「過去の一条天皇の行動」に該当する部分を傍線よりかなり前の部分から的確に探し出して、その部分の内容を正確に理解する必要がある問題である。

解答又は解答例

一

問一 ① ハ　② ロ

問二 A ホ　B ハ　C ロ　D ハ　E イ　F ホ

問三 導入された語が耳慣れない語でも、それが馴染みの語の組み合わせの場合、その語の元のイメージによって人々を誤った理解や行動へと導きかねないから。（７０字）

問四 Ⅲ

問五 イ ○　ロ ×　ハ ×　ニ ○

問六 a ルフ → 流布　b カンキ → 喚起　c 濫用 → らんよう

二－A

問一 A ロ　B イ　C ハ

問二 定量化・標準化（が確立）（△合理的、理論的に）

問三 ニ

問四 ニ

問五 ハ

問六 定量化・標準化されえない音の個別的・主観的な特徴

問七 イ × ロ ○ ハ ×

問八 a 曖昧　b 会得　c 浸透　d 神髄（真髄）　e 妨げ

二－B

問一　よそよそしく親身ではない態度で

問二　a　イ　　b　ニ

問三　A　ニ　　B　ロ　　C　イ　　D　ハ

問四　お治めになるだろう

問五　道長が、皇后一族を考えるあまりに、粟田殿への関白の宣旨をすぐには出さなかった一条天皇が、詮子からの説得に屈するかどうかがわからず、気をもんでいるから。

問六　イ

問七　ニ

問八　ロ

国際文化交流学部プラス試験

出題の意図

【現代文】

一

主に２０世紀から２１世紀の現代における、特に「人権」という概念に関する諸問題について、国連の存在やその機能などを中心として述べた論説文からの出題である。問題文の文章自体は比較的平易なものであるが、２０世紀以降「人権」がどのようなものとして捉えられてきたか、この概念がどのように変化してきたか、さらにはそこに国連がどのように関わってきたかという点を理解することが重要である。特に正誤を判定する○×問題は、問題文で展開されている「人権」や「国連（付随する諸機関も含む）」に関する記述内容を正確に理解していなければ正解を導き出せない。また問四、問五の空欄補充問題は、前後の文脈のみならず、全体的な内容把握ができなければ正解を見つけ出すことができない問題である。なお、3つのある漢字の書き取り問題は、いずれもその漢字自体は目にする機会の多い文字ばかりである。この中で「タイベツ」（正解・大別）は小学校低学年レベルの漢字だが、正答率が最も低かった。この例のように、日常的にも使用頻度の高い、しかも単純な漢字の組み合わせであっても、その文脈における適切な単語の選択とその漢字表記を結びつけて理解しておくことは重要である。漢字の書き取り問題は、明朝体、教科書体、游明体などの字体はすべて正答とみなしている（二－A の書き取り問題も同じ）

二－A

平安時代の陰陽師安倍晴明に関して、主に彼が後世においてどのような存在として民衆に認識されてきたか、その認識はどのように変化してきたかなどに関する記述部分からの出題である。設問の中で特に問三（傍線部分と同じ意味の別の表現部分を抜き出す問題）、問四（空欄補充問題）、問五（理由を８０字以内で説明する記述問題）、傍線部や空欄部の前後のみならず、問題文全体の内容把握、主旨の把握を必要とするものである。さらに問六（問題文の内容との正誤を判定する○×問題）ももちろん問題文全体をよく読み解かなければ解答できない設問である。

【古文】

二－B

問題文は『和泉式部日記』の一節で、恋人であった為尊親王（故宮）の死を悲しむ作者（女）のもとを、為尊親王の弟の帥宮敦道親王（宮）が見舞った場面からの出題である。

動作の主体や対象、状態の持ち主などが明示されていることが少ない文体なので、ひとつひとつの文について、それは誰の誰に対する行為なのか、またその状態の主体は誰（あるいは「何」）なのかなどを把握しながら読み進めた上での全体の内容把握が必要となる。

問七の品詞分解、およびその部分の現代語訳の問題だけは問題文全体の意味理解がなくても解答できるであろうが、動作主指摘問題や単語や句の意味を問う選択問題では少なくとも該当部分の前後数行の意味把握、それ以外の設問は問題文全体の内容の把握が必要な問題といえる。問六は「人もこそ聞け」というこの句の辞書的な意味がわかっているだけでは答えられず、この文脈にこの句が置かれた場合にどういう意味になるかというより具体的な説明が必要である。

解答又は解答例

一

問一　A　ニ　　B　イ　　C　ハ　　D　ニ　　E　ロ

問二　画期的

問三　ハ

問四　トランスナショナル

問五　国家

問六　イ　○　　ロ　×　　ハ　○　　ニ　×　　ホ　×

問七　a　あんねい　　b　しゅうえん　　c　大別

d　露骨　　e　はくだつ　　f　撲滅

二－A

問一　ハ

問二　A　ニ　　B　ロ

問三　母がキ　～　いう話

問四　正当化

問五 動物の超能力を「神」の「降臨」で説明する、国家の正当化と結びついた陰陽道の理論が、民衆の霊的世界に調和するように組み替えられて、「神」が重要性を失うから。

問六 イ ○　ロ ×　ハ ×　ニ ×

問七 a 生業　b きとう

二－B

問一 ① ロ　② ニ　③ ハ

問二 a ハ　b ロ　c ニ

問三 ロ

問四 冷淡にお思いにならないでください。

問五 イ

問六 自分が宮から連れ出されて移動する車の音を人に聞かれていたら困る。

問七 【品詞分解】

明く ／ なり ／ ぬ ／ べけれ ／ ば

形容詞　動詞　助動詞　助動詞　助詞

【現代語訳】

明るくなってしまうだろうから